

Ideal coaching in the hockey

1K08B176-1

福井玲央

指導教員 主査 堀野博幸先生

副査 木村和彦先生

【序論】

私は、フィールドホッケーというスポーツに携わっておりますが、フィールドホッケーはスポーツの中で、マイナースポーツに位置付けられ、フィールドホッケーコーチに関する研究は少ない。コーチという存在はスポーツを行うにあたって必要不可欠な存在である。現代スポーツにおいて、様々な指導方法があるが、その中には決して全てが合理的な指導方法とは限らない。

本研究ではフィールドホッケー界の、中学校年代・高校年代・大学年代と分類し、それぞれの年代の特長を捕えつつ、比較し、検討しようと考えた。選手への指導の中で、フィールドホッケー独自のルールの中、勝利するためには、どのような戦略が正しいのかを視野に入れながら、調査を行った。そして、中学校年代と高校・大学年代では、ゲーム人数が異なる。その中で指導方法にも変化が見られると考えた。私は、将来フィールドホッケーコーチとしての立場に立った時に、どのように選手に関わればよいのか、どのようにして選手を育てていくのか、本研究を通じて、明らかにしたいと考え、本研究を進めた。

【方法】

2010年度中学校全国大会・高校インターハイ・大学王座決定戦などの全国レベルのチーム所属コーチ(45名)を対象にアンケートを行ないそれぞれの試合の終了後、アンケートを行なった。ホッケー独自のルールによる選手への指導方法も多種多様であり、中学・高校・大学と比較してみると様々な結果が得られた。

【結果】

アンケート結果により、選手への声かけの分類では、選手に対して、体罰・罵倒などは有効ではないという結果が得られ、スパルタ指導が効率的であるかという問いには、年代別に違いが見られた。戦術・戦略面の分類での結果はフィールドホッケーを指導する上で、コーチは経験者でないと

いけないという回答が多く、練習では、基礎練習より、実戦練習を行なった方が効率的だと答える回答が多くみられた。

アンケート回答には年代別に大きな特徴が見られた。選手とコーチを信頼し、尊重しなければならないが、コーチ側も選手を尊重し、信頼しなければならないと同時に、選手が日々成長していく中でコーチ自身も日々成長しなければならない。

【考察】

アンケート結果によりコーチは選手に対して、戦術・戦略を指導することはもちろん大事であるが、その背景にはモチベーションが大きく関係があり、重要なことはどのような指導場面でもモチベーション維持が大切でありその上で様々な指導を行わないといけない。選手がコーチ側から指導された内容を自分なりに考え、理解し、吸収する能力がモチベーションによって大きく関係してくる。選手への声かけ一つでも、選手が何を求めているか、何を考えているのかをしっかりと把握し、かつ、自分の考えも伝えていかないといけない。そして、勝利の為にコーチは常に試行錯誤しながら選手に対してアドバイスを行わないといけない。中学時代での基礎練習はとても重要であり、高校、大学とホッケーを続けていく上で、中学ホッケーでのスキルがそのまま自分自身のプレーカラーとして成り立っていくため、中学時代に基礎練習を怠らず繰り返すことで、高校、大学での実践練習で力を発揮することができ、試合につながっていく。良いチーム作りをしていくには、選手、コーチお互いが、努力し、お互いモチベーションを高く維持し、厳しく接するときはタイミングに注意し、コーチとしての威厳も保たないといけない。

ホッケーというスポーツを心から愛し、ホッケーに心底打ち込めるチーム環境を作り上げることもコーチの大きな役割であると考えられる。